

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



新採用者を迎えて

教育担当看護師長 細坪 美貴

あわら病院では16名の新採用者を迎え、4月1日から3日間、新採用者研修が行われました。研修初日に津谷院長から、あわら病院が目指す方向について講義を聴き、あわら病院の一員としての使命を自覚できた様子でした。その他、医療安全・院内感染防止対策などの講義や演習を行い、病院職員として必要な基本的知識の確認を行いました。また院長や職場長、その他異動職員も集まった意見交換会では、自己紹介をして交流を深めることができました。看護部では今年、待ちに待った多くの新人看護師を迎え、最終日は新人看護師に対して看護職の責務やマナー・接遇などの講義を行い、看護職としての心構えの確認をしました。初日は緊張した様子でしたが、徐々に慣れて笑顔で終了し、新採用者同士協力して頑張ることを確認することができました。新採用者全員が元気に成長できるよう病院全体で支援をしていきます。皆様よろしく申し上げます。

魅力的な病院であり続けるために



看護部長
南江 静代

この度、福井県嶺南に位置する敦賀医療センターから嶺北のあわら病院に赴任してまいりました。日々、看護部長室から見える北潟湖、桜やツツジの花々、新緑に囲まれた自然の豊かさを感じております。

さて、今、看護に対して「あらゆる場、あらゆる人に対する

良質な看護の提供」が求められています。看護ケアの対象は多様化しておりこれに伴い看護提供の場も広がってきました。人々が疾病や障害があっても住み慣れた地域の中で生活を続けられるため地域包括ケアシステムが推進されてきました。当院では、平成27年より在宅療養支援病院として患者さんが住み慣れた地域で安心して療養生活を過ごせるよう訪問看護ステーションが開設され、今では専門とする神経難病、重症心身障がい児(者)医療、長寿医療の看護経験を活かした看護師が生き生きと訪問看護を行っております。

さらに、病棟看護職員が看護の場を院内から在宅へと継続できる環境であることを活用し、入退院支援・訪問看護を強化し地域・施設とのつながりを深めていきたいと思っております。そして慢性的な疾患と向き合い療養されておられる患者・家族・地域から選ばれる病院でありたい。

では、あらゆる人に対して良質な看護の提供が行えているでしょうか。患者満足度を挙げる視点として、看護師が患者や家族に感心を持ち患者の状態を把握すること、患者の持つ潜在的能力を強めより良い状態にすること、看護を提供する際の判断、実施、評価が適切でありケアの継続性が保たれていること等があります。当院では熟練した看護師の「日々の変化に気づく判断力と技」若い世代の新しい知識と看護に対する意欲などを融合し看護の質を高めていきたいと思っております。

平成から令和という新しい時代で、新たな職責での役割を精一杯果たせるよう努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。



高齢者の心不全

循環器科 医長 森下 哲司

社会の高齢化に伴い、高齢者の心不全が増えています。心不全とは、心臓に何らかの異常があり、心臓のポンプ機能が低下して、全身の臓器が必要とする血液を十分に送り出せなくなった状態をいいます。

近年、生活習慣の欧米化に伴う虚血性心疾患(心筋梗塞や狭心症など)の増加や高齢化による高血圧や弁膜症の増加などにより、心不全の患者さんが急増しています。高齢化の一途をたどる我が国では今後患者数の増加が続くと予想されており、こうした状況を、感染症患者の爆発的な広がりになぞらえて「心不全パンデミック」と呼ぶこともあります。罹患者数は全国で約120万人、2030年には130万人に達すると推計されています。がんの罹患者数が

約100万人ですから、心不全の患者さんがいかに多いかが分かります。

高齢者の心不全は、症状がはっきり現れないことも多く、症状があっても「年のせい」と思い込み、放置していることが少なくありません。予防には日常の生活管理(塩分、水分の節制、禁煙)が重要です。原因となる生活習慣を変えるためには、本人の自覚はもちろん大切ですが、高齢者の場合、家族や周囲の協力が不可欠です。できるだけ心臓に優しい生活を心がけるとともに、少しでも普段と違う症状があれば、念のため、病院で調べてもらうようにしましょう。



地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

佐々木眼科



現状の施設紹介は他施設と大同小異ですので、10年後の当院の医療連携の予想を述べます。

令和10年、国の借金はますます増加し、消費税18%、医療費の自己負担は現役世代50%、後期高齢者30%に増加。新幹線は敦賀まで開通したものの、観光客は期待したほど増えず、頼みのインバウンドも東南海地震、富士山噴火それに続く国家財政破綻以降は潮が引くようになくなった。

- 1) 医院の待ち時間は短くなった。これは後期高齢者が増加しても受診できなくなり、しかも医師の高齢化を補うように人工知能付き検査機械が普及したためです。
- 2) 受付嬢という名の後期高齢女性がてきぱきとパソコンを操作し、国が管理する患者様の電子カルテを調べ、スタッフは患者さんを検査機械の前に案内するだけ。視力や他の検査も顔を機械に載せるだけであつという間に終了して人工知能が診断。
- 3) 主治医という名の主爺(68歳)は結果だけ見て処方承認して終わり。
- 4) 主治医に残った仕事は手術と検査機械になじまない子供や寝たきりの患者様の診察だけ。元気なのは仕事をしている後期高齢女性だけ。
- 5) 地域医療連携はどうなった? うーん、どうなるのでしょうかね。

こんな10年後どうでしょうか。

院長 佐々木 次壽

佐々木眼科

〒913-0016 福井県坂井市三国町三国東5-2-6 TEL 0776-88-0033

診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土
眼科	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
	14:30~18:00	○	×	○	手術	○	×

アイリスは「24時間対応体制」になりました

訪問看護ステーション「アイリス」
管理者 大蔵 真由美

訪問看護ステーション「アイリス」は平成27年7月に開設し、4年目に入りました。ご存知のように母体であるあわら病院は“多くの人の笑顔のために”を使命としています。「アイリス」は地域住民の方が住み慣れた地域やご家庭で、笑顔で生活できるようお手伝いできればと活動を行っています。

あわら市は、全国平均よりも高齢化が進行しています。高齢化が進むと、何らかの慢性的な病気が潜在化している方が増え、病気を持ちながらご家庭で生活する方が増えていきます。そうした方は風邪などちょっとした体調の変化を引き金に悪化したり、今まで一人でできていたことができなくなって介助が必要となります。訪問看護は病気を持ちながらご家庭で生活する利用者の方が、今の生活を続けられるよう体調に合わせた支援を行います。しかし体

調の変化は休日や夜間であっても起こり得ることです。これまで「アイリス」は訪問してそばに寄り添い不安を軽減したい、ケアをして苦痛を緩和したい、病状悪化を早期に見つけて治療に繋がりたいという思いを持ちながらも、休日や夜間は電話でしか対応できませんでした。

ようやくこの4月から体制を整えることができ、念願の「24時間対応体制」及び「緊急時訪問看護体制」を開始することとなりました。これからは訪問日以外や夜間であっても緊急の場合の訪問をお受けすることができます。「アイリス」を利用される方やご家族に寄り添い、お一人一人の笑顔に結びつく安心で丁寧な看護を提供していきたいと思ひます。



外来担当医表

(令和元年6月3日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	津谷 寛	津谷 寛	見附 保彦	見附 保彦	森下 哲司
	小児科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	湯浅 光織*	川満 徹*
専門	リウマチ			津谷 寛	津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*	大槻 希美	
	生活習慣病			鈴木 友輔(第2・4)		
	老年					柴田 敦(第1・3・5)
	神経			佐々木宏仁(第1・3・5)		
	循環器	見附 保彦	見附 保彦			
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	浅井 一希				
	眼科				吉岡 達也*	
	皮膚科		若原 真美			若原 真美
	地域ケア	鈴木 友輔				
禁煙外来	見附 保彦	見附 保彦				

- 受付時間8:30~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診察 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始
- ※皮膚科の診察は、火曜日・金曜日の午前中(受付時間8:30~10:30)です。
- ※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:30~11:30)です。

栄養管理室便り「食中毒注意報」

栄養管理室 主任栄養士 佐藤 奈生子

6月に入り、雨が降ることが多くなってきましたね。これから夏にかけて特に注意したいのが食中毒です。2018年度福井県の報告では食中毒が10件発生しており今年度も引き続き注意が必要です。食中毒予防の3原則は①菌をつけない②菌を増やさない③菌をやっつけることです。具体的な方法として①は正しい手洗いと十分な流水での食品の洗浄、②は食品の保管温度の管理と短縮、③は十分な加熱がポイントとなります。食品についての細菌は10~60℃(危険温度帯)で増殖しやすい

とされています。

これから気温が上昇しやすくなる季節となりますので、特にご家庭では手洗いと食品の十分な加熱処理、加熱後の保管方法について再度気を付けていきましょう。栄養管理室でも日々食品の加熱時間や冷却時間、保管温度の確認を徹底し皆様に安心・安全な食事提供に努めてまいります。



独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1 TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249
 〈地域医療連携室〉 TEL.0776-79-1212内線(785) FAX.0776-79-1261
 URL <http://www.awara-hosp.jp/>

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液・腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
 老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

【病床数】172床

【教育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(5km)
 乗合タクシー(デマンド交通)[事前予約が必要]

JR北陸本線芦原温泉駅より(10km)
 乗合タクシー(デマンド交通)[事前予約が必要]